高度情報社会と情報セキュリティ技術

Information Security Technologies in the Advanced Information Society

耳浦　勲
Isao Mimiura

読者諸兄には，昨今頻繁に“情報セキュリティ”という言葉を目や耳にされていると思います。

最近のマスコミでは，いやがらせの電子メールで他人に迷惑をかけている話，パソコン通信のパスワードを大量に盗み出し人に売って大もうけしている高校生，自社のパソコンシステムに不正侵入し，自分の口座に金を着服した事件など，枚挙にいとまがありません。そして，そういう行為を暗号やICカードなど最先端技術を駆使し阻止するのが“情報セキュリティ”なのだと説明されています。

ここで，“情報セキュリティ”はわれわれ一人一人にとってどのような意味合いをもつものなのか，個々人にはあまりかかわりのない単なる犯罪阻止の手段なのか …。

われわれの生活は，朝起きてから夜寝るまで，多くの場面でコンピュータの恩恵にあずかっています。朝，食事をとりながらテレビの天気予報を見，駅の自動改札機に定期を入れ出社，会社に着けば，パソコンの電源を入れ，電子メールを読み，指示や返事を送る。帰宅途上，無人預出金機（ATM）で現金を引き出し，帰宅するとテレビのニュースを見，人によってはパソコン通信を始めるなどなど，われわれの生活は天気予報，自動改札機，電子メール，預出金機，ニュース，パソコン通信など，すべてコンピュータおよびネットワークの利用そのものにより，支えられています。

また，将来われわれの生活を大きく変えるであろうと考えられる“コンピュータ・ネットワークの利用”の一例としては，昨今新聞紙上をにぎわしている電子商取引（EC）があります。これは現金が動いていた取引と違って，ネットワーク上やICカード上の電子メモリに記録された“お金情報”のやりとりで決済を行おうとするものであり，従来の生活習慣，文化を根底から覆す力を秘めています。すでに欧米では多くの実験が始まっています。国内では，当社もメインオペレータとして参画している通商産業省主管のEC実験が1997年度からスタートする計画であり，遠い将来の夢物語ではなくなりました。

以上見てきたように，われわれの個人的な生活の場であれ，企業の業務活動，経済活動であれ，今後加速的に多くの場面で“コンピュータ・ネットワークの利用”が土台となることは論をまちません。

われわれ個々人は，好む好まないにかかわらず，これらわれわれを取り巻く環境の大変革の中で，自己実現や自分の夢の実現に向けて，懸命に仕事に励み，家庭を守りはぐくみ，また余暇を楽しむなど行動しています。“情報セキュリティ”はわれわれにとって単に犯罪阻止のための一技術というだけでなく，もっと直接的な意味合い，すなわち“自分の夢の実現を助け，守ってくれる技術，生きていくために必要な情報，手続きや資産，権利をいつも正常に維持してくれる技術”と言えるのではないでしょうか。

今回の“情報セキュリティ特集”では，当社の情報セキュリティへの取組みを紹介するとともに，新規の強力で使いやすい情報セキュリティ技術の開発状況も記載しています。読者諸兄におかれては，当社がこれらの技術を活用し，高度情報社会の各種場面においてご活用頂ける“コンピュータ・ネットワークシステム”の開発，事業化に向け，日夜まい進していることをご理解いただければ幸いです。

情報・通信システム新規事業企画室 室長　Information & Communications Systems New Business Planning Office